



130  
2  
4



是ハ再度校印ノ分

リゼンドル氏建言書

114  
A 4434  
7



第七章

英國ニ對シ日本ノ施スベキ處置法ノ事

日本ノ危難將サニ英國ヨリ起来ラントスルノ

兆アリ而シテ又日本ハ魯國ト其得失ヲ同フス

ル<sup>ルカ</sup>因<sup>リ</sup>日本ノ利アルガ如ク見ユルト虽トモ

日本ハ固ク英國ニ抵抗シ或ハ又妄リニ魯國ニ

依頼スル如キ處置法ヲ施スベシト余ハ言フニ

アラザルナリ余ノ意見ハ之レニ相反セリ今若

シ日本國名ノ如キ處置ヲ施ストキハ必然自カ

ラ困難ヲ招キ来タス可キ一ハ他ガ人々ノ知レ

飛澤武

大蔵省

大正十一年四月  
隈侯爵郵寄贈

ル如ク余モ亦確知セリ蓋シ日本ノ國力ハ猶ホ  
未タ微弱ナリト言ハサルヲ得ス而シテ今マ日  
本ノ當ル可キ難事ナキニ非ラズ然ルニ今又タ  
之レニ加ルニ此一難事ヲ以テスルトキハ猶一  
層國力ノ微弱ヲ増スニ至タル可ク而シテ日本  
ノ為メニ甚タ緊要ナル開化ノ進歩ヲ障碍ス可  
シ譬ハ日本國ノ到着セント欲スル港ハ前頭ニ  
アルナリ故ニ只善ク國ノ舵ヲ取り四面ニ駢立  
シタル暗礁ヲ經過シ得バ安全其港ニ達スベキ  
ナリ今マ余ガ日本國ノ施サンコトヲ願フ所ノ處

置ハ則チ他ナシ只條理ニ叶ヒ且ツ獨立自主ノ  
處置法ヲ以テ各國ヲ待センコトナリ扱英國  
ニ對シ日本ノ將サニ施スベキ處置法ハ甚タ明  
カニ知ラレタリ則チ日本ハ英國ニ對シ敵對ノ  
形狀ヲ為ス可カラズ然レトモ之レ迄テノ如ク  
英國ノ為メニ壓了サレザランガ為メ意ヲ用ヒ  
ザルベカラズ蓋シ斯ク逼壓セラレトキハ内  
ハ自主ノ權利ヲ以テ國事ヲ管治スル能ハズ外  
ハ全ク同等ノ地位ヲ以テ外國ニ交通スルコト能  
ハザルベシ而シテ自主ノ權ヲ以テ國ヲ治メ同

等ノ位ニ居テ外國ト交ハルコトヲ得ザルトキハ  
絶ヘテ國カヲ強フスルコトヲ期ス可ラス又萬國  
之間ダニ於テ日本ノ須ラク占ムベキ地位ニ立  
ツコトヲ期スベカラザルナリ

日本ハ英國ニ對シ須ラク左ノ言ヲ陳フ可シ  
我ハ你ヨリ支那ト同一ノ待遇ヲ令ヨリ受ク  
ルコトヲ容サハルベシ你ハ你ノ國ノ資本ヲ使  
用シ産業ヲ興サン為メ我國内地ヲ開カシ  
メテ欲セリ而シテ你ハ只ニ我ノ取捨クベキ條  
款ヲ承諾シ或ハ又其他你ノ方ヨリ陳出シ而

シテ我カ意ニ適スベキ條款ヲ承諾スル上ハ  
我ハ你ノ欲スル所ヲ容シ能フ可シ  
但シ此一條ニ付キ我ノ所見ニ依レハ其事情  
左ノ如キモノナリ  
我カ意見ニ於テハ我ハ支那ト全ク異ナリタ  
ル有様ニ於テ你ニ待遇サレズンバアルベカ  
ラザルコトハ前既ニ陳ヘシ所ナリ抑支那政府  
及ヒ其國ノ鎖國黨ハ民間ニ<sup>西洋</sup>道行ハル  
コトキハ自個ノ威權忽チ衰微シ遂ニ全ク凶  
滅スルニ至ルヘキコトヲ知ルニ當リ都テ改新

西洋説

道

其國

ノ事ヲ極メテ嫌惡セリ故ニ<sup>西洋説</sup>恭遜ノ道ノ其國  
 行ハ<sup>レ</sup>テ<sup>レ</sup>拒メリ而シテ支那ニ於テハ  
 你ハ右ノ如キ政府及ヒ鎖國党ヲ待遇スルナ  
 リ然ルニ日本ニ於テハ事情全ク之レト相及  
 シ日本政府ハ外國人ノ技藝協力及ヒ資本ノ  
 助ケヲ藉リ以テ日本人民ノ<sup>下</sup>情形ヲ進歩セシ  
 ヲ且ツ國ヲ富マスノ基<sup>ニ</sup>ト開カン為ノ其人  
 民ヲシテ恭西諸國ノ人民ト親睦ノ交ヲ結バ  
 シメ<sup>レ</sup>ン<sup>ト</sup>切ニ志願セリ然リト虽トモ令若  
 シ一時ニ國ヲ開キ而シテ最初ノ間ヲ限制ノ

法ヲ設ケザルトキハ日本人民ハ外國ノ方策  
 技藝及ヒ資本ノ用方ヲ解セザルカ故ニ日本  
 人民ト外國人トニテ合カシテ生シタル結果  
 ノ過半ハ外國人ノ手ニ必然入ラン<sup>ト</sup>テ日本  
 政府ハ深ク憂ルナリ故ニ日本政府ハ日本人  
 刊行ノ新聞紙及ヒ全國ノ諸地ニ建立セル學  
 校ヲ以テ民間ニ必需ノ智識ヲ布揚セン為メ  
 ニ今ニ專ラ其力ヲ尽セリ<sup>ニ</sup>此新聞紙ニ於テ  
 ハ<sup>地</sup>方ノ論說者ハ今日政事上ニ<sup>ニ</sup>関涉セル緊要  
 事ヲ自由ニ論辯スルナリ因テ斯ノ如キ論說

者ハ終ニ世上ノ諫言者ニ適當セル人物ニ進  
 ムベク而シテ又後世ノ人ヲシテ最モ同化セ  
 ル國人ノ日本へ來遊スルモノト同等ノ交リ  
 ヲ做シ能ハシムル如キ世体ニ漸々日本ヲ進  
 歩セシム可キナリ扱又右ノ諸学校ニ於テハ  
 外國ノ語学ヲ教授シ又日本語ヲ以テ出板シ  
 且圖画ヲ加ヘタル書冊ヲ以テ泰西ノ諸學術  
 ノ初步ヲ教授セリ其上へ日本ニ於テハ婦女  
 子ニ至ル迄テ人トシテ文字ヲ讀ミ且ツ之ヲ  
 書スルノ術ヲ知ラザルモノナキカ故ニ(人々

文字ヲ讀ミ且ツ之ヲ書スルヲハ獨リ支那ニ  
 アラザルノミナラズ西洋ノ或國ニ於テモ絶  
 ヘテ見ザルコトナリトス右ノ如ク布揚セル  
 知識ハ一層速カニ民間ニ及ホス可シ  
 政体上ニ此ノ一大変革ヲ做サシ為メ我カ國ノ  
 大君ハ豪氣ヲ奮ヒ且ツ全ク自身ノ心意<sup>口</sup>出  
 シ殆ント上帝ノ權ニ均シキ權カヲ一國ノ為  
 メニ一朝ニ棄絶セリ而シテ又大名ハ同ク其  
 世襲ノ特權ヲ辭シタリテ而シテ此特權ヲ失  
 ヒシニ野リ殆ント飢寒ニ迫ルニ至リタルモ

ノ唯一人ノミナラストス而ミテ斯ノ世襲  
ノ權ヲ奪ハシ世ニジテ患苦ヲ蒙ルモ全ク其  
臣民及ヒ本國ニ對シ已レノ亦分ヲ尽サント  
ノ心意ニ出テシモノナリ  
世体上ノ大变革ノ全ク成就スルトキニ至ラ  
ハ泰西諸國ニテ其國ヲ日本人ニ開ラキタル  
ト同様ノ有様ニ日本モ亦タ泰西諸國ノ人民  
ノ為メ安全ニ國ヲ拓キ能フベシト虽トモ此  
兩種ノ人民ヲシテ自由ノ文リヲ做サシムハ  
キ適當ノ時節未ダ到来セザル以前直チニ自

由ノ交通ヲ限制セル法ヲ廢止スルトキハ恐  
クハ日本人ト外國人トノ間ニ爭論ヲ生スル  
ニ至ルベク而シテ其爭論ノ永ク引續ク間タ  
<sup>恐</sup>成ハ改革ノ全事業ハ半途ニシテ止ムニ至ル  
ベク且ツ爭論ニ関涉セル外國人ノ本國政府  
<sup>日本政府</sup>ノ間タニ葛藤ヲ生シ夫レカ為メ今々日本  
政府ト外國政府トノ間ニアル親睦ノ交際ヲ  
破ルニ至ルモ計ル可カラサルナリ  
日本政府ハ此变革ノ事業ヲ成就スル迄ニ  
若干ノ時間ヲ要スベシ而シテ斯ク遅延セル



時間若<sup>シ</sup>餘り長シト思ハル、トキハ巴<sup>一</sup>  
ヲ得ズ差向キ不完全ノ一方策ヲ採用スベキ  
ナリ

令マ直チニ内地ヲ拓キ能ハサル所以ハ則チ  
一ニハ下低ノ税額花ニ外國人ハ日本ノ法律  
外タリトノ章程ヲ現今ノ條約面ニ掲ケタル  
ニ依リ此條約ヲ以テハ内地ヲ拓キ能ハサル  
一明カナリ又一ニハ縱令日本ハ寬裕ノ法律  
ヲ設立スルトモ外國政府ハ其國民ノ生命  
自由及ヒ貨財ヲ直チニ日本國ノ法院ノ裁斷

ニ委子ザルハ亦明カナリ其故如何トナレハ  
適宜ノ法律ヲ設立センコトハ容易ナルベケレ  
ト是レヲ實際ニ施行シ能フベキ人物ヲ一朝  
ニシテ教育シ能ハサルベケレハナリ是ニ亦  
一難事アリ之レ則チ日本政府ハ其人民ニ對  
シ威風ヲ失フヘカラザルナリ然ルニ若シ外  
國人ハ日本ノ法律外タリトノ章程ニ因リ外  
國人ハ日本内地ニ居留セル時ニ至リ外國人  
ハ其本國法院ノ裁斷カ成ハ至身其又ハ埃及  
ニ於テ如ク長キ審判官ト外國

裁判所ノ裁断ノ外決シテ他ノ裁判所ノ審  
 断一服セサルトキハ日本人民ハ斯ク外國人  
 之為タル一做シタル此ノ區別ヲ見外國人ノ方  
 ヲヨリ擅カシ日本人民ノ上ヘニ出テ(シト)ハ  
 思ヒ若シ左程ニ日本ノ風習ヲ嫌ハ、何故外  
 國人ハ日本ニ来レルヤ何故已レノ本國ニ止  
 マリ居ラザルヤト云フベシ而シテ外國人ハ  
 元來政府ノ趣意ニ戻リ内地ニ来住セシメ  
 テ畢竟政府ヲ微弱ナルヨリ外國人ヲシテ其  
 指令ニ従ハシメ難ハズト做ストキハ人民ハ

縦令政府ヲ侮慢スルニ至ラザルモ必然敬恭  
 ノ心ヲ喪フベキナリ(1)  
 今マ斯クノ如キ事情ニ於テ我ハ裁判局ヨリ  
 獻言シタル諸律令ヲ悉ク検査シ且之レヲ改  
 正シ以テ你ノ志願スル所ノ日本ノ変革ニ相  
 適ヒタル一ノ新律ヲ作テ出サシムテ欲スル  
 ナリ而シテ此(1) 茲ニ亦一大難事アリ之レ則  
 新律(戒) 國ノ 于外國人ハ日本ノ法律外ク  
 何レノ部分ヲ ルカ改ニ外國人ヲ裁判スル  
 向ハ大你ノ國 モノハ必ス其本國ノ領事官

人ノ来リ住ス	ナルナリ然ルニ領事官ハ多ク商人輸入者 <small>ナルカ</small> 製造會社又ハ建築會社等ノ手代ナルガ故ニ日本ノ國產等ヲ發開セシ為テ等ノ趣意ニテ此ノ國へ来リタル外國人トハ多少連結スルハ必然ナリ去レバ日本人ト外國人トノ間ニ
ノ必ス	ト外國人官吏
律ニ	トニテ成リダ
版セシテ我	如何ナル裁判アルベキヤ計
レハ欲スルナ	
リヲ實際ニ施	
行スベキ任ヲ	
バ日本人官吏	
ト外國人官吏	
トニテ成リダ	

ル裁判所ノ成

ニ知ル可キナリ

ル可キ丈ケ其任ニ堪ヘタルモノニ委スベシ  
 扱テ右改革ヲ做シタル後你ニ取リテ新シキ  
 事情ハ縱令你ノ本國ニ在ル時ノ事情ニ全ク  
 均シカラザルトモ你ノ時々肯シテ住居シ且  
 ヲ其國法ヲ嚴ニ守ラシメラル、所ノ無量利  
 加及ヒ歐羅巴ノ諸國或ハ波斯ニ於テ你ノ住  
 ヲ一寺 事情ヨリ你ニ更ニ厭惡スベキ  
 心ニアラザルヤ表ヨリ必セリ  
 扱前ニ述ヘタル方策ヲ施行セン為我ハ日本語ヲ

解シ得キ外國人ノ内ヨリ我ノ意ニ適シ且	ツカ外國公使	合衆國ト波斯國トノ條約(千	八百五十三年十二月十三日	ニ結ヒシモノナリニ於テ裁	判ニ付キテノ條款ハ英國	ノ條約ト異ナルトナシ其文	則チ左ノ如シ	第五章	波斯國ニ於テ該國臣民ト合	衆國人民トノ間ニ起リタル
ル少数ノ人負	ヲ選舉シ磨ハ	十年間日本ノ	裁判官ト共ニ	裁判所ニ於テ	奉職セシメ而	シテ其間タハ				

退職セシメタザ	ル可シ因テ其	奉職間已 <sup>自</sup> 身	良 <sup>是非</sup> 心ハ外絶ハ	テ心ヲ動カス	トナカラシム	ベシ且又外國	ノ心ヲ命シ	右裁判官ニ伴	ハシム公ニ但	兩國ノ内何レノ國ニ於テモ
諸訟事及ヒ爭論ハ合衆國領	事官ノ在苗セル地方ニ於テ	通常右ノ如キ事件ヲ裁判セ	ル波斯ノ裁判所ニ於テ處分	サルベク而シテ合衆國領事	官附屬役負一名ノ前ニ於テ	訟事ヲ討論シ且ツ之レヲ公	平ニ審斷スベシ	第三章		

而シテ其狀師ヲモ亦若干年ノ間退職スルコトナラズ

兩國ノ内何レノ國ニ於テモ

此狀師ノ職  
務ハ法律ノ趣

其國ノ内地貿易ニ從事セル  
モノハ其商事上ニ附テハ兩

悉ク諳ル

國ノ何レノ國ノ商人タリ

ノ助ケヲ做ス

モ該商事ヲ行フ所ノ國ノ法

トトス而シテ

律ヲ遵奉ス可シ

裁判所ニ於テ審斷ヲ做ス以前必ス先ハ判決

ヲ取ラシムベシト右ノ人々ニテ地方法院ヲ

組立ツベシト地方法院トハ刑律及民律ニ關シ

ル事件ヲ論セス總テ法院へ訟出ツベキ訟支

ヲ審斷セン為メ全國ノ諸地方ニ於テ時期ヲ

定メテ開ク所ノ法院ヲ云フナリ

是ノ法院ニテ做シタル審斷ハ東京大阪及ヒ

長崎ノ地ニ於テ右法院ト同様ノ振合ニテ

設ケタル上控法院へ控告シ或ハ又東京ニ在

ル最上法院ニ控告スルヲ得ベシ而シテ右

地方法院ハ特リ外國人ニ關涉セル訟事ヲ審

斷スルノミナラズ又他ノ訟事ヲモ審斷スヘ

キ故ニ此ノ手段ヲ以テ外國人及ヒ日本人ハ

同等ノ地位ニアルヲ得ベキナリ斯ク法律

上ニ外國ノ元素ヲ加用スルトモ日本人民ハ

外國人ノ為ノ政府ニテ偏頗ノ處置ヲ施セリ  
 ト思フイテアルベカラズ却テ舊法ヨリ違カ寛  
 大ニシテ且ツ日本人モ外國人ト同シク其裨  
 益ヲ蒙ルベキ法律ヲ施行スルノ手段ナリト  
 想フ可シ而シテ又此法律ノ根元ハ元ト外國  
 ノ法ニ基キテ立テタルモノナラズ故此ノ法律ヲ日本國ニ施行スル  
 ノ際ニ當リ其助ケヲ做サシメン為メ外國人  
 ヲ使用セルト當然ナリト思ハルハナリ畢竟  
 斯クノ如キ法院ニ於テ外國人ノ奉職スルハ  
 是迄テ既ニ外國人ヲ使用セル諸官省共ニ諸

商社ニ外國人ノ入ルト全ク同様ノ訣ケニテ  
 聊カ國ノ豪氣ヲ損スルトアルベカラズ  
 我カ全國ヲ你ノ為メニ開クヨリシテ自然你  
 ノ國人ト我カ國民トノ間ニ交際上花ニ質  
 易上ニ於テ親シキ交通ヲ求タスベシ而シテ  
 你若シ左ノ條件ヲ承諾セバ此交通ヲ聊モ拘  
 束セザラザルニ許スルニ承諾スベキ條件ハ則  
 ち礦山ノ採掘或ハ製造ヲ論ゼス何等ノ事業ニ  
 テモ之レヲ興行セン為メ你ノ國人ト我國人  
 民トノ間ニ取結フベキ結社ノ約定ハ必ス先

其約定ヲ結ハントセル地方ニ在ル法院ノ日  
 本人及外國人裁判官ノ許可ヲ得ルニ非レハ  
 廢弛ニシテ用ヲ為スベカラサル事是ニ斯ノ  
 如キ事件ニ付キテ右裁判官ノ施スベキ處置  
 法ヲ議院ノ高議是ニ日本人及ヒ外國人トシ  
 テ組立テタル科ノ委員(此ノ科ノ委員ハ規則  
 中ニ列スル)ニ委任スル事ニ  
 設立等ノ事務ニ懸練ニ是ガ故テ規則中熟考  
 スベキ諸件ヲ仔細ニ思量シ一ツモ遺漏スル  
 ノ恐レアラザルナリ)ノ高議ヲ歴政府ノ設立  
 セル規則ヲ以テ限制スベキ事等ナリ

(八)  
 百三十一ページ及ヒ  
 其先キヨル也

今ヨリ二三年間ハ諸開港場ニ於テ現今施セ  
 ル裁判法ヲバ變革スルコトナキモ可ナルベシ  
 新條約ニ於テモ亦我カ國ノ需メニ應スル  
 所ノ改革ヲ加ヘ(此後非ナシ我カ國ハ)其改正ヲ承諾セ  
 ントスルニ是非トモ巨大ノ費用ヲ要スベシ  
 然ルニ此費用ニ充ツベキ金額ヲ内國租稅ヨ  
 リ收取スヘキ源アルコトヲ見ズ且ツ之レニ加  
 フルニ我カ國ハ海軍及ヒ陸軍ヲ進歩セシメ  
 且一盛大ナラシメナサルベカラズ沿海ノ防禦

ヲ設ケザルベカラズ通商ニ便ナラシメン為  
 ノ大ニ通達ノ路ヲ設ケザルベカラズ而シテ  
 此通達ノ路ヲ一度ニ設ケル上ハ我國ノ十分  
 連合ヲシ且ツ東邦ノ得失ヲ泰西諸國ノ得失  
 ト一層同一ナラシムルニ於テ其効アルト他  
 ニ其比類アラサルベシ今ヨリ此大事業ヲ舉  
 ケン為メ我ハ大額ノ金ヲ要セリ且又我ハ廣  
 大ナル荒野ヲ有セリ之レヲ変シ以テ牧場  
 做サントス又我ハ國ニ數個ノ大都アリ之レ  
 ヲ進善セントシテ欲ス此外我國於テ應サニ興

スベキ無数ノ事業アルカ故ニ大額ノ資本ヲ  
 要セリ而シテ  
 我ハ輸入  
 輸出品ノ稅  
 額ヲ相當ニ  
 増加シ以テ  
 其資本ヲ募  
 ヲレトシテ  
 ルナリ而シ  
 テ稅額増加

此ノ一事ノ緊要タルトモ右ノ各  
 シタル書類十六十九及ヒ廿一  
 号ヲ見ルベシ然レトモ右ノ各  
 類中ニ於テ記載セザリシ一事  
 アリ則チ此國ニ牛及ヒ山羊ノ  
 牧養ヲ開キ以テ此國ノ人口ヲ  
 増加セントシテ策之レナリ蓋シ  
 此國ノ人口ハ前二百年ノ間全  
 ク増加スルトナカリキ余ハ今



ノ多寡ニ有	マ二個ノ源因ヲ舉ケ以テ此ノ
ヲ他ノ國	實事ノ因テ求ル所テ明カニス
カガ獨立自	ベシ則チ芽一ノ源因ハ内國人
主ノ權利ヲ	民ノ食物ニ在ルナリ又芽二ノ
以テ之レヲ	源因ハ日本ニ於テハ非常ニ長
定ムルト同	キ間母ノ乳ヲ嬰兒ノ哺スル一
様ノ有様ニ	ナリ内國ニ住スル人民ハ或ハ
我自身ヲシ	米ト塩魚トヲ食シ若シクハ粟
ヲ之レヲ定	一品ヲ食物トセリ斯ノ如キ生
メシメシ一	活ヲ為スヨリシテ婦女ノ乳汁

ヲ你ニ求ム	極メテ不良ナル一ハ其哺育セ
ルナリ <small>(ホ)</small>	ル嬰兒ノ項部ニ生ズル疥癬及
カノ如ク我	ヒ躰ニ生スル腫物ニテ膝カニ
ハ我カ方策	知ルベシ而シテ斯ク不良ノ乳
ノ概畧ヲ你	汁ト魚トモ之レヲ十分ニ出サ
ニ陳述セリ	バル一ハ乳ヲ患フル婦人カ其
你若シ此方	病中或ハ病後ニ於テ佛殿ニ奉
策ノ大意ヲ	納シタル額ヲ見テ明カニ知ル
承諾セハ此	ベシ斯ノ如キ不幸ナル事情ニ
方策ヲ條約	於テ日本ノ孩児ハ著仔乳汁及

改正ノ日ヨ  
 リ一年ニ於  
 テ施行シ能  
 フ為メ我ハ  
 你トカツ併  
 セ以テ詳細  
 ノ條款ヲ速  
 カニ取設ク  
 ベシ

ヒ獸肉ノ如キ良食ヲ以テ養育  
 シ且ツ牛乳及ヒ山羊ノ乳ヲ常  
 ニ與ヘアト、フ國々ノ嬰兒ニ比  
 スレハ死込ノ數更ニ多シ日本  
 ニ於テハ右ノ如キ兒子養育ノ  
 法ヲ採用シ能ハサルノミナラ  
 ス時ニハ一村中ニ乳ヲ出セル  
 婦人ノ數纔カ三人ニ過キザル  
 所アリ此所ニ於テハ其婦人ハ  
 唯自身ノ嬰兒ニ哺スノミナラ

策ノ條件ヲ承  
 諾セズンバ他  
 ヲ諸邦(此諸邦  
 )輸入輸出ノ  
 商英國ノ輸入  
 輸出程ニ大ヒ  
 ナラサルニ因  
 リ輸入出ノ税  
 額ヲ増加スル  
 付キ英國程

ス其近鄰ノ孩兒及ヒ友人ノ兒  
 子ヲモ併セテ哺セザルヲ得ザ  
 ルナリ  
 抑モ塩魚及ヒ粟ノ如キ食物ハ  
 嬰兒ノ腸胃ノ能ク消化スル所  
 ノモノニエラス而シ又牛乳ナ  
 キガ故ニ乳汁ヲ米ニ調和シ美  
 味ノ食物ヲ製シ以テ之レヲ孩  
 兒ニ與フルヲ得ル故ニ四歳  
 或ハ五歳ニ至ル迄テ母ノ乳ヲ

深ク故障キルホ  
 之所也他國列  
 之右ノ方策ニ  
 基ツキ條約改  
 正ヲ為サシト  
 承諾セシメ  
 之為ニ勉力  
 スベシ而シテ  
 成國ハ日本ノ  
 内地ニ於テ産

離ル、能ハサルナリ我嘗テ一  
 人ニ遇ヘリ其人余ニ語テ曰ク  
 既ニ八歳ノ齡ニ達シタルトキ  
 猶ホ母ノ乳ヲ離ル、能ハザリ  
 シト蓋シ婦人ノ一兒ニ哺スル  
 間タハ子ヲ生シ能ハサルモノ  
 ナリ故ニ他ノ國々ニ於テハ一  
 女ニシテ五人六人若クハ猶ホ  
 其余ノ子ヲ産スト虽トモ日本  
 ニ於テハ纔カ三四人ノ子ヲ有

業ヲ営ムベキ  
 特許ヲ得夫レカ為  
 ンリ欲スル様見  
 ルトキ英國ノ  
 免ルトキハ多  
 分英國ヲ待ス  
 ル由頗ル容  
 易ナラシム  
 至ルベク而シ  
 英國ハ終ニ

スルニ過キザルナリ  
 為メ今マ英國ノ獨リ専ラニセ  
 見ル所ノ利益ヲ悉ク獲取ス  
 恐クハ英國此ノ一事ヲ承諾セ  
 ザルベシ然レトモ今ヨリ兩三  
 年ノ間タ稅額ヲ増加スルトテ  
 若クハ得ベシ而シテ其後ニ至  
 リ日本ハ自由ニ稅則ヲ改革ス  
 ベキ權利ヲ有セントテ成ハ得  
 ベキナリ

本ノ意ニ從	日本國ハ保護稅ノ法ヲ採用セ
フニ至ル可シ	ガルトテ得ザルノ道理ヲ明カ
若シ又英國ハ	ニ示サシ為メ予ハ保護稅ノ法
日本ノ意ニ從	ノ魯國ニ於テ如何ナル効ヲ顯
ハザルトキハ	セシヤラ茲ニ説キ示スベシト
嚴ニ依舊ノ法	グデット云ヘル人一小冊子ヲ著
ヲ以テ英國ヲ	シ其國人ニ告テ曰ク千八百十
待スルト上策	五年ヨリ千八百二十四年ニ至
ナルベシ則チ	ル迄テ魯國ニ於テ自由貿易ノ
舊條約ヲ以テ	法行ハレシ間タハ魯國ハ其國

英國ノ得タル	ノ需用品ヲ殆ント全ク外國ニ
權利ヲハ悉ク	仰キタリ依テ一朝若シ外國ト
之ニシテ容シ與	交通ヲ絶ツコトアル時ハ各國
フベシサレド	人民ノ一部ハ全ク裸躰ノ状ニ
其ノ余ハ毫モ	至ルベカリキ然ルニ今日ニ至
新タニ與フル	リテハ之ニ反セリ魯國ニ於
トアラザルベ	テ製造セル印花布ハ其品價甚
シ英國ハ日本	タ美ニシテ其價值モ亦廉ナル
ノ為メニ必需	カ故ニ中央亞細亞及ヒ支那ノ
國ニアラズ	市ニ於テ悉ク英國製造ノ印花

シテ日本ハ  
 公道ヲ以テ英  
 國ヲ待スルノ  
 向タハ英國ハ  
 敢テ日本ヲ攻  
 撃スルコトア  
 ルベカラズ錢  
 銀練熟シタル  
 建築師及ヒ諸  
 貨物ヲ得ベキ

布ヲ黠ケ代ニテ其地位ヲ占メ  
 タリ又支那波斯アフガニリス  
 タン及ヒ東印度ノ北境ニ於テ  
 賣ラル、毛織物ニ付キテモ右  
 同斷ナリ魯國ヨリ産出セル金  
 銀製造品ハ其操様ノ美麗ナル  
 ヲ以テ世界一般ニ貴重スル所  
 ナリ又魯國ノ革ニ至リテ他  
 ニ比類アラザルナリ甜菜根ヨ  
 リ製出セル砂糖製造所ハ世界

國ハ特リ英國  
 ノマナラズ日  
 本ハ其要スベ  
 キ昔銀ヲ然テ  
 荷蘭及ヒ日耳  
 曼ニ於テ得能  
 フベク又其要  
 スル羅紗ヲバ  
 英國ヨリ得ル  
 全ク同一ノ

中何レノ國ヨリモ其数最モ多  
 シ而シテ魯國ハ綿絲ノ紡績ニ  
 於テモ亦大ヒニ進歩ニ  
 テ縮製造ニ至リテモ莫斯科ニ  
 於テ頗ル進歩ヲ為セリ斯ク僅  
 カ五十年以内ニ於テ總ヘテ此  
 大切ヲ奏シタルナリ(此件ニ付  
 猶ホ詳細ニ記載ヲ看ント欲セ  
 ハ千八百七十一年倫敦出版ノ  
 ポルレール氏所著ノ千八百七十

飛

大

歳

省

西値ヲ以テ且 年ノ魯國ト起セル書冊ヲ是ル  
ツ同様ノ品質 べシ

ヲ備ヘタルモノヲ佛國獨國ノ兩國ヨリ得能ク  
可シ而シテ佛蘭西及ヒ合衆國ハ総テ日本ノ要  
スベキ器械ヲ送り來スベシ鐵船ノ如キモ亦日  
本ノ自カラ之 (ハ) グリガム氏ハ他ノ諸公使ト合  
レヨ建造シ能 連セス別個ニ條約改正ノ商議  
ヲマテハ總テ 為サシイテ欲シ且ツ此ノ議  
日本ノ需用ス ヲ遂クルノカヲ有セル旨ヲ令  
ベキ分ヲ合衆 ヨリ一ヶ年前ニ陳ヘタリ去レ

國ヨリ送り能 トモ寺嶋氏ハ之レヲ承諾セサ  
スベキ時既ニ リシヨナリ

至レリ而シテ日本ニ於テ自カラ鐵船ヲ造  
ベキ時節ノ來ルモ亦遠キニアラズト余ハ期ス  
ルナリ

日本トノ交際上ノ所為ニ於テ外國公使ヲシテ  
英國公使ト連合セシメサル様為スコト甚ク難  
キニアラズト余ハ思考セリ是迄外國公使ノ英  
國公使ト連合スルニ至リシハ英諸公使ノ過テ  
ミナナラス其罪亦日本ニアルナリ蓋シ英國公



ル所ノ件ハ以前諸公使ノ一同連合シテ之ヒ  
タルトキニ拒絶セシ事タリトモ之レヲ許シ能  
フトキハ其請求ノ各件ヲ許可セシ一余ハ日本  
政府ノ為メニ益ナシトセザルナリ若シ斯ノ如  
キ處置ヲ施シテ猶ホ其知照ナク外國公使ハ日  
本ニ對シ常規ニ及シ而シテノ厭惡スヘキ所為ア  
リ夫レカ為メ日本ハ猶困難ヲ免カレ能ハズシ  
バ其上ハ本國政府ニ對シ此困難ヲ免カレズキ  
策ヲ施スベシ而シテ若シ此策ノ行ハレサルト  
キハ則テ衆意ニ訴フルノ外他ナシ此衆意ハ歐

羅巴及ヒ亞墨利加ノ兩大洲ニ於テハ殆ント最  
大ノ権カヲ有スルモノナリサレドモ終末ニ訴  
フ可キ此法院指衆意ヲニ其意旨ヲ通セシハ通  
常ノ手段ヲ以テシ能ハザルナリ  
扱衆意指衆意ヲ控告シ且ツ最大ノ勢力ト虽トモ之レヲ  
管制シ能フベキ程ノ衆權ヲ起シ来ス為メニ用  
ヒタル手段ハ五十年以來大抵プレス刊刷ノ意  
紙著ヲナリキ此機械ヲ適宜ニ用エルトキ冊新ノ意之  
レヲ以テ生シ来タリ所ノ實ニ當ルベカラザル  
ハ勢力ヲ知ラント欲セバ歐羅巴及ヒ亞墨利加

ル所ノ件

大

歳



於テ其重大事也ニ於テ其ノ顯ハミタル如  
ク以テ明カニスベシ此大勢力ヲ用ヒテ合衆國  
ハ其南部ニ行ハレタル賣奴ヲ一掃セリ又英國  
ノ執政官ヲ維持シ或ハ傾覆スルモ亦屢此力ノ  
働キニ依レリ當今英國ニ於テハ衆意ノ欲セザ  
ルトキ敢テ一戰ヲモ起シ能ハス苟モ衆意ノ向  
フトキハ戰ヲ拒ム能ハサルナリ此衆意ハ管制  
ノ機械タルコトヲ歐羅巴ノ諸政府ハ大ヒク承認  
セシ故ニ歐洲陸地ニ在ル各政府ハ其國ノ一般  
人民ヲシテ政府ノ目的ニ最モ多ク左袒セシム

ハキ様常ニ其目的ヲ表出セシ為メ一個或ハ其  
餘上<sup>新國紙</sup>器具<sup>類云</sup>ヲ備ヘ置クコトヲ以テ缺ク可カ  
ラサルノ一事トセリ斯ノ如キ器具ヲ佛國稱國  
澳國魯國及ヒ其他ノ國々ハ皆均シク備ヘタリ  
政府ハ此器具ヲ唯其國內ニ備ヘ有スルノミナ  
ラス其近傍ノ國々ニ於テモ亦之レヲ有スルノ  
例少カラズ英國ニ於テハ政府直ニ此器具ヲ有  
スルコトヲ要セズ且ツ之レヲ有スルコト良策ナラ  
ザルノ事情アルカ故政府ニテ直ニ此器具ヲ扶  
スルコトニ至ルニ至ラズトシテ及

之レヲイフ代ノ如キ有力ノ政事家ノ助ケヲ以  
テ之レヲ扶持セリ合衆國ニ於テハ歐羅巴ニ於  
ケルカ如ク大ヒニ此器具ヲ用ヒスト虽トモ又  
同ク之レヲ用ユルナリ右ノ如ク衆意ニ政府ノ  
意者ヲ通知スベキ器具ハ則チ政府因涉ノ事ヲ  
常ニ表示セル定期出版ノ新聞紙及ヒ倉卒ニ出  
版セル新聞紙上ニ論シ盡シ難キ特別ノ条件ニ  
付キ論說ヲ建テ之レヲ世上ニ布播スル所ノ小  
冊子是レナリ

<sup>如右ノ内ニ</sup>日本政府ノ景情志願並ニ其力及ヒ外國公使ノ

阻碍ノ所為ヨリ生シ来レル政府ノ困難(日本政  
府ニ對シ外國公使ヨリ阻碍ノ所為アルコトハ  
泰西諸國ノ一般衆庶ノ今々知ラザル所ナリ)等  
ヲ正ニ世上ニ示<sup>シ且</sup>為<sup>メ</sup>并<sup>テ</sup>政府ノ心意ノ誠  
實ナル事及ヒ其躰面并<sup>ニ</sup>威風ヲ保存<sup>スル</sup>為<sup>メ</sup>  
ニ用<sup>ヒ</sup>テ<sup>モ</sup>新聞紙<sup>ノ</sup>前<sup>ニ</sup>記<sup>ス</sup>ル<sup>ニ</sup>不<sup>可</sup>推<sup>ス</sup>ル<sup>ナリ</sup>  
内<sup>ニ</sup>テ<sup>モ</sup>最<sup>モ</sup>日本國ノ利益アル事疑ヒテ容<sup>ル</sup>ル<sup>ナリ</sup>  
ルナリ

横濱出版ノ諸外國新聞紙ノ邪僻ナル勉力ノ為  
之迄日本政府ノ被リタル害ハ甚ク大ニシテ

略ト混知レ可カラサルモノナリ其故ハ古新聞紙ハ其力微弱ナリ。雖トモ是迄多年間日本國ニ関セル新聞ノ歐洲ニ達セシ道ハ此ノ新聞紙ノ外ニ絶ヘテ無ケレバナラ。此新聞紙中或ハ新聞紙ハ特リ専ラ英國ノ利益ノミヲ計リテ出版シ而シテ其他ノ新聞紙ト雖トモ英國ノ利益ヲ計ルノ外他ノ利益ヲ計ルモノ一モアラザルナリ此諸新聞紙ハ皆日本國ノ今々創始セル進歩ニ奇異<sup>フキキ</sup>相<sup>ニ</sup>敵セリ而ルニ此新聞紙ハ歐羅巴諸國ノ宰相及ヒ其他權家ノ内ニ多ク配達サレ而

シテ屢其中ニ誹謗及ヒ虚誕ノ説ヲ掲載ス。ド絶ヘテ之レヲ辯駁スルコト無キカ故ニ人皆之レヲ疑ヒナキ實事ナリト見做スナリ合衆國ニ於テハ幸ヒ其事情稍之レニ異ナレリ其所以ハ日本國ニ未遊セル小數<sup>ニ</sup>世墨利加人ノ厚意ニテ日本ノ情實ヲ真正ニ陳説シ之レテ西國ノ新聞紙并ニ雜報中ニ掲載シタレバナリ而シテ或ル場合ニ於テハ其効頗ル著明ナリシト雖トモ其ノ如キノミニテハ日本ノ為メニ願ハシキ目的ヲ達スルニ十分ナラザリキ今日本ノ為メニ

略 必 緊 要 ナル 事 ハ 則 チ 現 今 ノ 日 本 ノ 方 向 又 ヒ  
意 旨 ヲ 十 分 明 瞭 ニ 表 示 ス ベ キ 新 聞 紙 ヲ 政 府 ノ  
具 有 ス ル 一 ニ テ 此 新 聞 紙 ヲ 以 テ 外 國 公 使 ノ 所  
為 ノ 上 ニ 直 チ ニ 其 力 ヲ 施 サ シ ム ル ノ ミ ナラズ  
之 ヲ 歐 洲 ノ 諸 都 府 及 ビ 最 モ 政 事 上 ニ 関 係 ア ル  
諸 地 方 へ 配 達 シ 以 テ 各 ノ 事 情 三 衆 庶 ノ 意 ヲ  
注 ガ シ メ 且 ツ 日 本 ノ 事 情 ヲ 更 ニ 善 ク 知 ラ シ ム  
ベ キ コ ト ナリ 斯 ク 如 キ 新 聞 紙 ヲ 出 版 ス ル ニ ツ  
キ 其 詳 細 ノ 廉 ニ 於 テ ハ 余 ハ 左 ノ 如 キ 方 法 ヲ 採  
用 セ ン 一 ヲ 欲 ス 則 チ 此 新 聞 紙 ヲ バ 公 報 私 報 ノ

二 部 ニ 區 分 シ 公 報 中 ニ ハ 法 律 布 告 規 則 報 知 等  
ヲ 掲 載 シ 其 重 大 ナ ル 某 事 件 ニ 付 キ テ ノ 政 府  
ノ 意 旨 ヲ 精 密 ニ 掲 載 ス 譬 ハ 其 實 政 府 ノ 心 意 ニ  
非 ラ サ ル コ ト ヲ 強 テ 政 府 ニ 帰 シ タ ル モ ノ ヲ 說  
破 シ 或 ハ 又 政 府 ニ 害 ア ル 無 根 ノ 流 言 ヲ 辯 駁 ス  
ル 如 キ 公 ケ ノ 陳 述 ヲ 掲 載 ス ベ シ 蓋 シ 重 大 事 ニ  
涉 リ タ ル 商 議 内 國 ノ 擾 亂 及 ビ 外 國 ト ノ 戰 争 等  
ア ル ト キ ニ 於 テ ハ 右 ノ 如 キ 陳 述 ヲ 做 サ ン 一 ヲ  
屢 要 ス 夫 キ 千 リ 扱 又 私 報 ノ 部 ニ 於 テ ハ 總 三 學  
識 ア ル 論 說 家 諸 說 ヲ 載 ス ベ シ 而 シ テ 又 該 部

中ニハ一般ノ得失ニ關係アル諸事件ニ付テ日本政府ノ警敵タル新聞紙ノ説ヲ説破シタル論説陳述及ヒ意見ヲ悉ク掲クベシ斯ク一ノ新聞紙ヲ二部分ニ區分スルヲ以テ外國公使ヨリ挿手ノ為メ成ハ生スベキ困難ヲ政府ハ避クル一ヲ得ベシ如何トナレハ其新聞紙ノ公報中ニハ何様ノ事柄ヲ設ケルトモ決シテ爭論ヲ起シ或ハ故障ヲ唱ヘ得ベカシザル所ノ確乎タル實事ヲ簡畧且ツ嚴格ニ記シタル陳述ノミヲ掲載シ而シテ私報ノ部ニ於テハ該實事ニ付キニ

評論及ヒ該實<sup>事</sup>ニ基ツキテ立テタル論説ヲ掲ゲタレバ萬一右論説或ハ議論中ニ一ノ外國公使ノ意ニ適セサルコトアリテ該公使日本政府ニ對シ苦情ヲ唱フル如キ奇怪ノ所為アルコトモハ日本政府ハ此新聞紙中政府ノ命ヲ以テ出版セル公報ノ部分ノ外毫モ其責ニ當ルベカラズ而シテ私報ニ至リテハ政府ノ管轄内ニ非サルヲ以テ政府ハ只ニ對フルノミナレバナリ且又政府ハ此答言ニ加フルニ左ノ言ヲ以テスルモ可キラ<sup>シ</sup>則チ私報中ニ諸寄書ヲ悉ク受クルガ故ニ外

國公使モ亦此新聞紙ヲ以テ自身ノ意ニ適ヒ  
ル様已レノ意見ヲ述フルイ素ヨリ自由タル  
ニト斯レ如キ新聞紙ヲ設クルノ策ハ日本ニ取  
リテハ一層<sup>又</sup>要ナルベシ其故如何トナレハ日  
本國ノ事情ハ明カニ外國ニ知ラレザルヲ以テ  
外國ノ衆庶ハ日本ノ事ニ白キテハ一層<sup>取</sup>騰著サ  
レ易ケレハナリ其一例ヲ舉ケンニ無墨利加ニ  
於テ一等ニ位セルニユールクタイムス新聞  
紙ニ於テ日本政府ハ其改革シタル新法ヲ施行  
シ始マントテ其國ノ人共ニ暴虐ノ處置ヲ施

リトノ事及ヒ該政府ハ唯一筆ノ下ニ疊ヲ廢止  
セシトノ事及ヒ日本人民ハ家具ヲ有セザルニ  
依リ疊ヲ廢止サレシヨリ大不便ヲ來タシ夫レ  
カ為メ全國動乱ノ兆ヲ顯ハセシトノ事ヲ二ヶ  
年前者讀セシイテ余ハ記帳セリ又二ヶ月前余  
カ北京ニ在リシトキ英國皇帝陛下ノ使臣ピ  
ト氏ピットマン氏ニ語テ曰ラタ西<sup>下</sup>氏<sup>が</sup>  
事件ニ付キ知レル所ハ悉ク皆ニヤツパンヘラ  
下及ヒ<sup>ル</sup>新聞紙ニ付キテ拾集セシモナ  
ト然ルニ若新聞紙ノ説ニ相及シ且更ニ<sup>ニ</sup>

光緒

歲

説ヲ掲ケテ東京日々新聞ヲピットマン  
氏ニ授ケタル後ニ至リテウエード  
臺灣事件ニ白キ其意見ヲ頗ル大ヒニ  
トゾ扱臺灣事件ノ如キハ頗ル明カニ知ラレ  
キ密ナル北京ノ如キ一都府ニ於テ且ツ東京ヲ  
距ルニ甚ク遠カラザル地ニ於テスラ唯衆庶ノ  
意見ノミナラス既ニ支那ニ於テ四十年ヲ送リ  
之所ノウエード氏ノ如キ人物ノ意見モ亦猶ホ新  
聞紙ノ説ヲ以テ斯ノ如ク大ヒニ変シ能フニ於  
テハ條約改正外國人日本法律外ノ章程内地貿

易花ニ旅行裁判法等ノ事件ニ至リ歐羅巴及ヒ  
亜墨利加ニ於テ日本ノ讐敵党之レヲ評論スル  
ニ於テハ其國々ノ衆庶花ニ政府ノ意見上ニ何  
等ノ差響キヲ起シ来ルヘキヤ推知ス可キナリ  
又政事上ニ関涉セル重大事ニ於テ小冊子ノ用  
ヲ做スコト又均シク明カナリ諸邦衆庶ノ自カ  
ラ之ヲ查察スルノ遑ヲラザル如キ事件ニシテ上ツ  
新聞紙上ニ於テ尽シ能フ如キ講説ヨリ更ラニ  
精密且ノ嚴格ナル辯説ヲ要スベキ所ノ事  
講明センガ為ノ小冊子ヲ用ヒテ大ヒニ其  
之ヲ

龍

龍

現ハシタル英國ノ現今ノ宰相デスレーリ氏  
唯四十年前ニ自身ノ著述セシ小冊子ノカニ  
依リ始メテ該國ノ公務ニ於テ一地位ヲ得タリ  
而シテ其後續キテ高位ニ進ミタルノ第一ノ由  
リヲ為シタルモヤ  
政事上ノ小冊子ヲ唯大冊  
ニ作シタル數卷ノ書冊ヲ著述セシハニテアリ  
而シテ此書冊ハ只ニ政事上ノ小冊子ヲ大ニシタルモノニ過キガレナリ  
外リ又ゴブデニ氏ジードストロイン氏ハ何レモ  
卓絶セル英國ノ政事家タリ而シテ皆斯クノ如  
キ書冊ヲ屢著述シ或ハ論種ヲ授ケ人ヲシテ著  
作セシメタル人ナリ斯ノ如キ小冊子ハ今日本ノ為メニ緊要ナル

目的ヲ達セン為メニ用ヒスル如キ小冊子ハ  
二倍ノ功ヲ奏ス可シ其故ハ自國ノ人心并ニ亦  
外國ノ人心モ併セテ誘導スベケレバナリ且ツ  
此小冊子中ニハ諸般ノ事件ヲ推窮セシ教知ヲ  
簡略ニ掲載シ能フベク且ツ傍註ヲ加ヘ以テ斯  
ク掲載シタル故知ヲ捷速ニ證スルヲ得ベキ  
ナリ  
此小冊子ノ効アルコトヲ示スベキ一例ハ下ノ  
関償金事件ニ付キテ作りタル著述ニ於テ見  
ル可シ此ノ著述者ノ趣意ハ特ニ合衆國ノ議事

飛騨

歳

日



院ニ於テ其論ヲ行ハントセシメドモ若シ之  
レヲ日本ニ於テ刊行スルトキハ是迄一般衆庶  
ノ未タ知ラザリシ緊要ナル既往ノ實事ヲ世上  
ニ表出スベシ而シテ此ノ實事ハ後來若シ外國  
公使ヨリ下ノ賠償金ニ齎シキ償金ヲ暴ニ討求  
スルコトアリタルトキ之レヲ拒絶シテ當然ナ  
ルコトノ道理ヲ示スノ用ヲ為スベキモノナリ  
政府用ノ小冊子ハ常ニ其著述者ノ名ヲ著ハサ  
ズ且ツ何人ノ手ニ出テタルヤヲ知ラシメサル  
コト通法ナリ

政府ハ政事上ニ關係セル事件ニ付キ其意見ヲ  
懐キ而シテ某時ニ於テ其意見ヲ世上ニ顯サシ  
ムコト宜シキニ適フヤ否確カナラザルコトアリ  
然ル時之レヲ敢テ世上ニ表出セザル以前自國  
ノ人民及ヒ外國政府ハ其意見ヲ察シ、ヤ否ヲ  
知ラント欲スレバ屢スルベシ然ルトキ斯ノ  
如キ小冊子ヲ巧ニ用ユル時ハ政府ハ失錯ノ  
舉動ヲ避ケ能フベシ第三世拿破崙ハ其在位間  
常ニ大舉動ヲ做シタリシニ一舉動ヲ行ハント  
決スル前必ス先ツ斯ノ如キ小冊子ヲ出シタリ

キ (ト)

政府ノ新聞紙ヲ編輯スルモ<sup>著</sup>ノ及ヒ其他無名ノ  
 小冊子ヲ著述スルモ<sup>著</sup>ハ其新聞紙或ハ小冊子  
 ニ載スベキ論說ノ旨意ヲ須ク政府ノ最高ノ  
 地位ニ在ル人<sup>(ト)</sup>ノ受クベク而シテ此編輯者或  
 ハ著述人ハ最モ<sup>(ト)</sup>斯ノ如キ書冊ノ記アルコトハ  
 學信任スベキ人  
 物中ヨリ撰擧ス  
 ベシ政府ノ補助  
 ヲ為ス斯ノ如キ  
 元來臺灣島ハ支那帝國領地  
 ノ一部ナリヤト云ヘル題号  
 ニテ著述サレタル一冊子  
 ニ於テ其一例ヲ見ルベシ此

人物ガ信任スベ  
 キ性質ヲ備ヘタ  
 ルヤヲ十分ナル  
 確證ニ依リテ查  
 察スルコトハ此上  
 ハモチキ一大難  
 要事タルナリ此  
 編輯  
 任ニ當ルベキ  
 人物ハ唯其性質  
 賢ニシテ且心才  
 小冊子ノ由テ来リタル本ヲ  
 ハ明告セガリシト虽トモ支  
 那人ハ此小冊子中ニ若干ノ  
 確說アリト信シタリ而シテ  
 此冊子ノ終始支那政府ノ旨  
 承認セガル說ヲ主張シタ  
 ルニ其終末ニ至リ一計ヲ載  
 セタリ之ニ依テ支那政府  
 ノ心中ニ一方策ヲ提起シ  
 メ而シテ大久保氏ノ尽力ヲ

夫アルノミヲ以テ支那政府ヲシテ終ニ此  
 テ足レトセズ 方策ヲ採用セシメタリ  
 成ル可クハ已ノ習慣經歷ヨリ此國ノ政事  
 上ノ形勢ヨリ國事ニ関セル日本又同様ノ情ヲ以  
 情考察スル様ニシテ人物中ヨリ選ビ此任  
 然立テ至リタル所ノ人物中ヨリ選ビ以テ此任  
 ニ當ツベキナリ蓋シ編輯ノ術ニ於テハ何程ニ  
 熟達スルトモ此國ノ利益ニ相ヒ敵セル政事党  
 ノ論ニ習慣シタル者ノ裁制ニ委テタルヨリシ  
 テ不幸ヲ来セシ一例ハジャツパンノールノ編輯

者ニ於テ見ル可キナリ此編輯者ハ日本ニテ半  
 ハ扶持セル其本社ノ新聞紙中ニ於テ日本政府  
 ノ事ニ付キ誣調ノ説ヲ掲ケ且ツ又有力ナル倫  
 教タイムス新聞社へ恰モ日本ノ大讐敵ノ如ク  
 臺灣一件ニ付キテノ日本ノ處置ヲ然始非難セ  
 ル教書ヲ寄セ其新聞紙中ニ於テモ亦日本政府  
 ヲ誣ヒタル虚説ヲ載セ以テ大害ヲ為シタリキ  
 扱右ニ説キタル趣意基キテ新聞紙ヲ出ストキ  
 ハ日本ニ關係セル肝要ノ教知ヲ外國ノ人衆へ  
 告布スルノ助ヲ做スノミナラズ日本人出版

新聞紙ヲ管制スルノ用ヲ為スヘシ此日本人  
出版ノ新聞紙ニ政府ヨリ許シタル無限ノ自由  
余ハ殆ト是ノ自由ヲ放肆ニ云ハントスヨリ  
シテ此新聞紙ハ往々衆庶ノ心中ニ迷誤惑乱ノ  
種ヲ時クナリシニ日本ノ衆庶ハ封建制度ノ時  
ノ擔任ノ情ヲ風習ヲ饒ニ晚セシニシテ  
自由出版ノ有セル如キ大勢力ノ有害ノ感動ニ  
抵抗スベキ適當ノ心意ヲ未タ備フルニ至ラザ  
ルナリ

今政府ノ新聞紙ヲ設ケ之レヲ正シキ標準トナシ

以テ人心ヲ誘導<sup>導</sup>有害<sup>感</sup>動ヲ防ギ能フベケン而シ  
テ又若シ此感動カシテ世上ニ行ハレシメ置  
ク時ハ歐羅巴ニ於テ用ユル如キ拘制ノ方法ヲ  
二三年内ニ採用セザル可カラズ但シ此方法ハ  
之レヲ施行スルノ際管束ノ力足ラコト而シテ往  
々苛酷ニ至リシニ  
日本人民ハ嘗テ一個ノ大家族ノ姿ヲ做シ而シ  
今ニ猶也其姿ヲ存スルカ故ニ各人自主自任ノ  
道理ニ基キテ建立シタル泰西諸國ノ如キ國々  
ニ於テ行ハル烈シキ教育<sup>用</sup>ヨリハ此

一大家族ヲ管理セル者ヨリ勸戒教訓ヲ加フル方却テ一層日本人ノ為メ益アルベシ

外國人日本法律外タルベシトノ章程ヨリ改メテ猶ホ之レヲ存シ置キ且テ又若シ前文ニ陳ハタル方策ニ基キテ條約改正ヲ做サ、ル時ハ政府ニ関涉セル事ヲ許論スルニ付、日本人出政ノ新聞紙ヲシテ守ラシムベキ所ノ其限度ヲ外國政府ハ亦タ日本ニアル外國新聞紙ヲシテ越ヘザラシムベキ旨ヲ特別ノ條款ニ於テ外國政府ト約束ス可シ而シテ此法ヲ竊カニ犯ス者

アリタル時之レヲ罰スルノ法ヲ預メ設クベキナリ

番  
語  
註

大  
藏  
省



